
会長就任にあたって

公益社団法人 日本証券アナリスト協会
会 長 小 池 広 靖 CMA



会長就任にあたりご挨拶申し上げます。

私が証券アナリスト協会検定会員（以下、CMA）になりましたのは1994年です。当時の証券会社ではリサーチに基づく銘柄推奨が根付き始めた時期でした。私は野村證券の支店で個人のお客様を担当しておりましたが、株式投資の考え方を深め、有望銘柄を選択するため様々なアナリストレポートを読んだ記憶があります。1990年以降の株式市場のパフォーマンスは非常に厳しく、銘柄選別やお客様のパフォーマンス向上に大変苦慮しましたが、CMAの基礎的な知識や考え方のおかげでお客様に様々なアドバイスを提案することができました。

2000年以降は、インベストメントバンキング部門に身を置くことになります。長引く金融不況やリーマンショック等の影響で日本の多くの企業が厳しい経営環境に直面しました。その中で、お客様の企業価値向上のためのM&A、資本調達、ヘッジソリューション等の企業の財務コンサルに携わりました。ここでもお客様へのご提案、ビジネスの着想等、全ての根幹にはCMAとしての企業分析に関する考え方がありました。振り返りますと、私が経験しました金融ビジネスには、CMAとしての視点が大きい役に立ったと感じております。

現在、私は野村アセットマネジメントのCEOとして機関投資家、個人投資家への資産運用サービスの提供、機関投資家としてのエンゲージメント活動等に携わっています。スチュワードシップ・コード、コーポレートガバナンス・コードの制定以降、責任投資に対する意識が急速に高まっており、機関投資家としての役割は非常に大きなものと感じてお

ります。また、ESGへの取り組みも強化される中で地球環境の課題解決と持続的な経済成長の両面を実現することが必要になります。

CMAに求められる役割は、個別企業の分析にとどまらず、企業と投資家との対話における建設的な議論展開にも及びます。資本市場の発展や投資の好循環（インベストメントチェーン）の実現に向けてCMAの果たすべき使命は大きくなっています。

機関投資家分野においてはグローバル、低流動性資産を含めた多様なアセットクラスへの投資はスタンダードになりつつあり、バリュエーションやリスクマネジメント等の一層の深化が不可欠となります。また、AI技術の急速な発展に伴い、伝統的クオンツ運用とは異なる、ビッグデータに基づく資産運用戦略開発も一層活発になっており、新たな資産運用に関する知識や技術の調査分析、そして情報発信もわれわれの重要な使命となります。

個人資産形成分野では長期・分散投資の考え方、資産形成に関する取り組みを広く普及させ、2000兆円の個人金融資産を健全な投資にシフトすることが将来的な国民金融資産の拡大、そして資本市場の健全な発展にもつながりますが、ここでもCMAの果たす役割は大きなものと思います。

資本市場や社会の変化に合わせ、CMAの活躍シーンが広がっております。調査・分析対象のみならずCMAのバックグラウンドも多様化してきております。これらは当協会の長い歴史の中で、会員の諸先輩方、会員の皆様のご尽力とご活躍の賜物と思いますが、今日までの協会の歴史を今後も紡いでいくには、世界的パンデミックを背景とした不透明な社会変化に対して柔軟に適応し、金融資本市場育成に対する高い志が肝要であると思います。

CMAがその社会的使命を一層果たしていくために、会員の皆様のインテリジェンスが最大限に発揮され、日本証券アナリスト協会が日本の資本市場、資産運用ビジネスの大きな発展の原動力となるよう会長として精励努力して参ります。

何卒、よろしくお願い申し上げます。

小池 広靖（こいけ ひろやす）

野村アセットマネジメント株式会社 CEO兼代表取締役社長

2021年8月 当協会会長就任